

## 留学報告書

アリゾナ大学植物科学科  
種田 修三

アリゾナ大学に来てからすでに5年が経ち、ようやく卒業が見えてきた。今までの報告書では植物の採集旅行について書いてきたので話題には事欠かなかったが、今はパソコンに向かい論文を執筆する毎日である。報告書に書くような話題がなく困った。そこで今回は私のアメリカでの趣味について簡単に紹介したい。

私は小学校から大学まで日本で野球に没頭していたが、アメリカでは専ら剣道の稽古に励んでいる。発祥国でやりたくないというわけではない。実際に渡米前まではツーソン（アリゾナ大学がある街）で野球をやるぞーと意気込んでいた。しかし、大学が始まった9月にはすでに選手登録期間が過ぎており、チームに参加するためには次の2月まで待たなければならなかった。それまでの半年間をどう過ごそうかと考えていた際に、以前の交換留学中に始めた剣道を再び始めようかと思いついた。そこで幸運にも地域の剣道会があったので行ってみると、小さな道場に剣士が2人。たまたまこの日が2人だけだったものの、実際にも10人にも満たず、日本人も全くいない小さな剣道会であった。しかし1ヶ月も稽古に通っていると、もっとここで剣道を続けていきたいと思う理由がいくつか見つかった。剣道をもっとツーソンで普及していきたいと思ったことや、この剣道会は非常に雰囲気がよく、全員が剣道に真剣に打ち込んでおり、自分も彼らと共に精進したいと思ったことである。そんなこんなで留学5年目になってもバットではなく竹刀を握っていた。

剣道をツーソンで広めるにはどうすればいいか。ツーソンは日本人も少なく、剣道を知っている人もとても少ないため、新たな参加者を見つけるのは難しい。スターウォーズ等の剣？を使った映画が上映されると毎回数名が体験は来るものの、映画で見るのと実際にやるのでは雲泥の差があることを悟り、すぐに辞めてしまう。ある日たくさんの人が剣道場前に集まっていたことがあった。ついに剣道ブームが来たかと思ったが、実際は剣道場がポケモンGOというゲーム上でポケモンジムになっていただけで、一人も道場に入ってくることはなかった。練習を楽しく参加できるように工夫してみてもうまくいかない。こんなことが続くばかりであった。そこで、少しでもアリゾナで剣士を増やすために手を打つことになった。

今年に入ってツーソンの剣道会の協力のもと、友人らとアリゾナ大学の剣道部を創設した。大学での竹刀の使用許可の取得から始まり、club constitution と呼ばれる部活としての規定を定めたり、部の代表を大学教授にお願いしたりと様々な手続きを経てようやく今年の夏に創設にこぎつけた。今までに団体の立ち上げに関わったことがなかったため、こうした手続きでは多くのことを学んだ。部の運営や宣伝の方法を決めるだけでなく、多様性や inclusiveness を意識した constitution の執筆や、練習場所や道具の確保に苦心した。最終的には企画書を大学に提出し、練習場所や竹刀などの道具の費用として、20万円近くの資金を調達できた。現在では10人弱の学生と稽古に励んでおり、来年には

大学のチームとして大会に参加できればと考えている。また翌月には、アリゾナ大学でアメリカ南西部最大の剣道イベントの開催も控えており、この調子で少しでも多くのツーソンの方々に剣道を知ってもらえる機会を提供できればと考えている。

不思議なもので、卒業を目の前に控えるとツーソンに対する愛着も日に日に強くなる一方である。その愛着の大部分をこの剣道会、そしてアリゾナ大学剣道部が占めていることは間違いない。残り少ない留学期間、研究はもちろんのことだが、こうしたツーソンの剣道コミュニティにできるだけ多くの貢献をしよう、と心がけて毎日奮闘している。



写真上：アリゾナ大学剣道部（右から1人目が筆者）

写真左下：練習風景　写真右下：シカゴでの剣道大会風景（手前右側が筆者）